

八幡市総合計画審議会 第1部会(第1回) 議事要旨

■日 時：平成29年5月12日(金) 14:30～

■場 所：市役所分庁舎 2階 会議室A

■出席者

【委員】

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、沖田 悟傳 委員、奥村 正明 委員、加藤 博史 委員、川原 絵美 委員、田邊 昭 委員、辻村 修太郎 委員、能瀬 巖 委員、藤田 美代子 委員、古市 久子 委員、松下 順英 委員、八木 英夫 委員、橋本 行史 委員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、堀川 政策推進課係長、岡田 政策推進課係長

■欠席者

岩成 功 委員、木下 重喜 委員(代理出席：京都府八幡警察署生活安全課長 安達 茂樹氏)、中川 一 委員

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
 - ・[基本目標1]「ともに支え合う『共生のまち やわた』」について

■配布資料

- ・第1章 ともに支え合う『共生のまち やわた』 ※施策体系のまとめ
- ・第1章 ともに支え合う『共生のまち やわた』(素案)

■傍聴者

なし

1. 開会

加藤部会長（以下、「部会長」）：ご案内の通り、これまで全体の審議会において、6つの基本目標が示された。これらの目標に関して部会で議論をということになり、本第1部会においては「共生」「未来」「持続可能」というテーマに関して、議論を深めてまいりたい。本日は、第1章 ともに支え合う「共生のまち やわた」に関して、皆様方と検討を進めたい。事前にお送りしている資料や前回の審議会でも説明があった通りだが、本日は様々なご意見を忌憚なく出していただき、それを事務局で再度まとめあげる、ということをしていただきたい。事務局は大変だが、少し根源的なご意見もあっていいと思う。技術的なこと、あるいは文言等、様々なことを忌憚なく議論を交わしてもらいたい。

2. 協議・報告事項

部会長：それでは基本目標1「ともに支え合う『共生のまち やわた』」について、事務局から資料の説明をお願いしたい。

事務局：（全体のねらい説明）

前回の審議会でご提示した施策の体系等を出発点として、委員の皆様からいただいたご意見や庁内の幹事会で出た意見を踏まえて、第1章の大きな体系と素案の資料がある。この中の、施策の背景や現状課題・関連情報データ等は、今までご報告したものをまとめている。さらに次の10年に向けた主な取組の方向性や、その施策の進捗を計る指標をいくつか案として提示している。6つの分野で議論していくが、この中から全体を串刺しできるような将来像や考え方といった本質の部分をいかに抽出していくかについても、併せて考えたい。

事務局：（資料説明（第1節））

部会長：どの部分からでも結構であるので、ご意見、ご質問をお願いしたい。

めざす姿に関してはこれでよいか。①人権・平和の尊重についての意見はないか。外国人はどこの国の方が多いのか。外国人登録者数が776人（平成23年）から964人（平成27年）に増えている。これまで、外国人の方に対するニーズ調査や地域活動への参加度やマイタウン・マイシティといった帰属意識等をアンケートするといったことがなかったと思うが、指標として意味があるのはそういったものではないか。「外国人と日常的に交流のある市民の割合」という指標が案として例示されているが、具体的に何をしているかつかみにくい。

事務局：指標については、実数で得られるものと、市民の意向のアンケート結果等でしか得られないものが混在している。市民の方がどう思われているかという意向を調査しようとする、統一的に毎年ローリングして意見を聞いていくという仕組みが必要。それも含めて検討の必要があると思っている。

部会長：外国人の方が多いマンションで、「私たちは関係がないから自治会から抜けさせ

てほしい」と言われたという話を、八幡市ではないが他の地区で聞いた。「関係ない」と言われるのは辛い。自分達のまちだ、という意識を高めていくアプローチやコーディネーターの存在が必要になってくるかもしれない。命の大切さや個人の尊厳が基本中の基本であり、マイノリティの権利、多様性を尊重する社会、ダイバーシティ、ということ意識して考える必要がある。

委員 : 平和への関心の喚起について、戦争体験談の収集については、私の母も市から依頼を受けて協力させていただいた。私も知らない貴重な話がたくさんあってたいへん勉強になった。こういうものはもっと読んでいただいて、広めていく必要があるのではないかと。せっかくまとめられたものが活かされない。

部会長 : たいへん貴重なご意見。せっかく優れた教材ができて、配布して終わりではなく、中高生、小学校高学年くらいの子どもとキャッチボールできるような、読んで受け止めたところまで広げていく取組も大事。

会長 : 相談体制等は充実しているように思うが、めざす姿に「生き生きと活躍できています」という能動的なことを設定するのであれば、活躍・交流する「場」や「役割」が必要ではないか。生活するだけであれば相談だけで良い。可能であれば、今後の取組や方向性にそうしたものを盛り込むことはできないか。指標案に「日本語教室の参加者数」とあるが、日本語教室だけでなく、例えば、子どもをきっかけとした外国人子ども会やスポーツを通じた交流会などの参加者数を指標にすればよいのではないかと。

委員 : 外国人登録者数が増えているのに日本語教室の開催回数が減っているのはなぜか。日本語教室開催が周知されていないのか。人権交流センター相談窓口（女性・生活相談等）延べ相談者数の相談件数が減っているのは良いことか悪いことか。減っている原因としては、相談しにくいからなのか、良い方向へ変わっていったからなのか。

事務局 : 日本語教室は公民館の活動として行われていることが多く、開催回数が減っている経緯についてはいま事務局では分かりかねるが、周知不足はあると思う。

市民部 : 人権交流センターの相談には女性相談、地域の生活相談、地域内の家庭支援相談（就学前の子どものいる家庭）がある。この相談は相談者が来訪するのではなく、こちらから聞きに回っているものなので、相談件数が減っている理由としては、こちらの体制のこともある。

戦争体験談記録集については、2年かけて作成し、各学校に配布している。図書館でも貸し出しできるようになっている。市のHPや平和のつどいでも紹介していこうという考えのもとで進めている。

部会長 : 戦争体験談記録集を配布して終わるのではなく、子ども達が読んだ感想をフィードバックしてもらいたい。

部会長 : ②男女共同参画の推進についての意見はないか。

- 委員 : 女性管理職を 30%以上にするなど、数字で表すといろいろなところに効果がある。「審議会等委員の女性登用推進」が平成 27 年で 34%とあるが、男女は同数いた方がよい。審議会委員はこちらからお願いすれば人選できることなので、思い切って 50%にしても良いのではないか。実現可能な数字だと思う。
- 外国人との交流については、日本語教室もそうだが、料理教室などを通じて交流が広がることがある。言葉がわからなくても身振り手振りの”about like this”でコミュニケーションが取れるきっかけになる。役割や活躍する場も必要だが、その人が持っている力を引き出す工夫も必要。
- 委員 : 男女共同参画社会リーダー養成講座を卒業された方のその後の活動内容や、自分の場所をどのように見出されているかなどを知りたい。
- 市民部 : 男女共同参画の講座は 3 つあり、1 つはリーダー養成講座、男女共同参画社会啓発講座、あと 1 つは女性に対する暴力 (DV) に関する講座を行っている。様々な講座を行う中で、リーダーを育てていこうという趣旨のもとで活動しているが、次に生かしていくということがなかなか進んでいない状態。さしあたっては「男女共同参画推進員」になっていただくことを考えている。
- 部会長 : ぜひとも活躍できる場を準備していきたい。
- LGBT の話を入れるのであればこの章だと思う。この議論もようやく始まった感があり、その辺りも盛り込むことが必要ではないか。
- 若い人たちの晩婚化、晩産化、非婚化。こういう人が急激に増えている。ここに盛り込むなら、工夫が必要。
- 委員 : 結婚の促進がここに入るのであれば、出会いの場をつくってはどうか。電車でも病院でも人の顔を見ることがない。お見合いの場をつくるのではなく、一緒に何かする、対話を通じて心が動く場所・場面をつくる。祭にみんな来てくれればよいが、若い人は集まりにくい。年配者の中に若い人を入れていくのも 1 つの方法。
- 委員 : 私は独身だが、出会いの場所をつくるのは重要。男山地域は大規模な賃貸住宅があり、様々な地域から人が来る受け皿は整っている。UR が子育て世代を優遇する支援や制度を展開して若い世代が入っているが、住宅規模として団地では子どもが 2 人 3 人というのは手狭になり厳しいという話を聞く。住宅としても検討課題がある。「住宅すごろく」は、文化住宅→団地→夢のマイホームで上がり、と大学時代に習ったが、歳を取ると団地に戻ってくる人も結構多い。男山地域には団地があり、周辺は戸建住宅が広がっているので、八幡市の中で移り住むような、循環する方法はないかと思っている。出会いの場や、結婚などのタイミングや、様々な方向から考えられる。UR の集会所の利用率が下がっている中で、子育て世代が集まれる場所にしようというプロジェクトがあり、参加者数も多い。40 年前は同世代が一気に移り住んできて、何もしなくても出会い

の場はあったと思うが、今は多様な世代が住んでいるので、集まるきっかけ・場づくりは重要。

会長 : 夕張市では国際映画祭を毎年やっている。全国から学生が集まっており、そこが出会いの場になっている。徳島県上勝町にも地域おこし活動（葉っぱビジネス）に参加しに、学生や若い方が来る。長野県小布施町には役場の横に活動センターがあり、東京の学生がたくさん参加していた。八幡市と過疎地とでは異なるが、外部の方が参加できるイベントや参加する場を、市やNPO 関係団体で作るといふことには大きな可能性がある。

部会長 : ③障害のあるなしにかかわらず地域で安心して暮らせる社会の推進、④地域のきずなと支え合いによる共生社会の推進についてのご意見はいかがか。
高齢者のことはどこに入ることになるのか。

事務局 : 高齢者という観点では、介護保険などになり、第3章の健康に入る。

部会長 : 「障がいのある方」とあるが「方」でなく「人」で良いだろう。あと、障がいの者のQOLの視点も必要。

(休憩)

部会長 : 再開する。事務局から第2節の資料の説明をお願いしたい

事務局 : (資料説明 (第2節))

部会長 : 自由にご意見、ご質問をお願いしたい。

タイトルについては、全体の審議会でも確認したが、これで良いか。つながりを深める、ということを目指しているが、緩いつながりを求める傾向がある。昔のような強固なつながりではなく、サークルや友達、趣味など緩いつながりを求め、あまり干渉しあわない。けれども何かあるときは助け合う、ということだとすると、つながりを深めるというよりは、地域のつながりが広がり、暮らしの安心感が高まる、といったような表現の方が良いのでは。

①コミュニティ活動による地域づくりの推進について、ご質問等はないか。

委員 : 市内世帯数は増加しているとあるが、世帯数も減っているのではないのか。

部会長 : 人口は減っているが、一人暮らしや二人暮らしの世帯数が増え、世帯数は微増している。全国統計では30%が単身世帯で、二人世帯が25%程度。

事務局 : 同じ屋根の下に住んでいても、家計（生計）が別ということで世帯分離するところも増えてきている。

部会長 : 自治組織率が減っているのは、世帯数が増え、分母が増えたためで、それに対してどういった手だてが考えられるのか。自治会を利用しない人が増えるのは、地域が壊れていく大きな要因となる。自治会に加入するメリットやインセンテ

ィブを考える必要があるのではないか。

委員 : 自治会をつくりましょう、と呼びかけたが僅差で否決されたこともあった。その当時 40 歳代前半の方が多く、共働き世帯もあり、昼間何かあった時のために連絡網だけでも共有しましょうと声をかけたが、過半数から反対があった。それ以来諦めて何も活動をしていない。でも地域特有の課題がある。今、大半の家の住人が 70 代半ばを超え、一時空き家になった住宅もあった。34、5 年前だと、市の広報紙は自治会が自宅に配布していたのではないかと思う。自治会がないため、まとまって何かをするのは、現在、年 2 回の募金のみで淋しい。きちっと組織として作らなくても地域で共通して何かしら活動するのは必要だと思う。

学校支援地域本部について、私も中学校区の一員で学校支援の活動をしている。学校ごとに特徴があるが、学校をサポートする体制がかなりできていると思う。教師だけが頑張っても良くならない。地域の支えも大事で、学校が地域に根付く手法として、今後ますますこの制度が発展すればと思う。

部会長 : 災害時や防犯などで自治会等の地域のつながりも大切。高齢の一人暮らしになると、役員になるのが負担だという意見も出てくるが、高齢の方でも障がいのある方でも役員が可能なサポーター制度が検討できればよいのではないか。

事務局 : 連合会はかなりがんばっておられる。リーフレットや自治会ハンドブックの作成、「自治会をつくるにはこんな風につくりましょう」ということや個人情報保護の話、加入率の低い地域にはリーフレットで配布し、自治会の重要性を説いている。市に対する要望も一人より大人数の方がかないやすいですよ、といった活動もしている。指月と石城の地域の自治会の設立がない。昨年 12 月に美桜に自治会が設置されたが、まだまだ加入者数は少ない。高齢の方々は役がまわってくるから抜けようという方もいらっしゃるし、高齢の方の場合は役を飛ばしている自治会もある。

委員 : 八幡市の 5 区の自治会の会長をしているが、5 区の自治会への加入率は 93%ほどあり、800 世帯中 740~750 世帯に加入してもらっている。自治会に入りたくない理由には、役に就きたくない、自治会に入るメリットが無い(自治会に入らなくても不自由しない)、という大きな 2 つのことがあると思う。現在 47 の班があり、基本的には班長は輪番でやってもらっているが、高齢の方や体の不自由な方などで班長ができないという方がいる場合は班の中でやりくりしていただいている。強制的に役を押し付ける形ではうまくいかない。

事務局 : 男山の賃貸は出入りが激しく加入率が低い。UR に新たな制度を作っていただき、だんだんテラスもがんばってくれているが、加入率が 20% 足らずというのが現状。

委員 : 私も自治会の役員などをしてきた。自治会ハンドブック等色々としていただい

ているが、役は結構大変。今年も「役を引き受けるのが嫌なので退会する」と言い出す人がいた。やはりインストラクターをつけるとか役所で指導・サポートできないか。役になった人が困ったときに、市役所に行って相談しよう、とはなっていないのが現状。住民登録したら自然に自治会に入る、といった意識付けのため、住民登録時に自治会のリーフレットの配布などもやっていただきたい。自治会によってやり方は違ってくるが、簡単な役のやり方などの事例をまとめていただくと助かる。古い自治会だと体育祭や盆踊りまで色々な行事をやっているが、それは大変だからできない、という自治会もある。「自治会は何をどこまでやるべきか」という指針があればと思う。

部会長 : 自治会の運営のノウハウをアドバイスする「自治会活性化アドバイザー」のような人が御用聞きなどをできないか、と思っていた。身を軽くする、という方向性も含めて活かしたい。

委員 : 私は男山の自治活動を活性化するというミッションも負っている。男山の自治会加入率が低いのは、賃貸の住人であるという構造的な課題がある。自治会という形態にこだわらず、自分たちのやりたいこと、楽しいことを中心につながりが作れないか、ということも考えている。住民だけでなく、外からの学生も巻き込んで、地域の自治活動に刺激を与える、ということもやっている。その活動を通じて、一緒にやりましょう、と声をかけるなどの役割も担っている。大学生ががんばってくれる中で、次は地域の高校生や中学生と共同して、何かをしようという動きも出てきている。色々な方向性があり、単に加入率を上げるだけではいけないのではないか。めざす姿に「・・・地域のつながりと暮らしの安心が深まっています」とあるが、安心を計る指標として、組織率・加入率の数と安心をどう結び付けるかは検討が必要。安心を何で計るのか、ということは深く考えなければならない課題。

部会長 : 安心を計る指標として具体的には、どういったものが考えられると思うか。

委員 : 難しい。よく聞かれることとして「だんだんテラスに年間どれくらいの人に来るのか」ということがあり、数は増加しているのだが、満足度はどうなのか。組織の数や訪問者の推移といった数だけでは計れない、というのは活動していて感じること。うまく指標化できる方法がないだろうか。

委員 : 男山は加入率が低い、ということだが、URの団地では団地内で祭りをされたり、桜の季節にぼんぼりを付けて回ったり、5月に鯉のぼりを団地内に吊るしたりと全国的な団地の動向と比較しても男山での地域活動は活発に行われている。担い手を作る、というのは公共とUR、URと民間の間に入って活動されている辻村さんみたいな人材を増やすことだと思う。そうめん流しなどの家イベントをするときは活気が出て人が集まる。指標にするのであれば、組織の数よりはイベントの数の方が良いのかもしれない。

- 部会長 : 町内や小地域でのコミュニケーション度を計れたら。中学生も一緒に活動した事例の共有化をお願いしたい。
- 委員 : 私のところは昔からの農家が多い。男山とはずいぶん状況が違い、農家主体で仲が良いグループで運営している状態だが、何をするかで悩んでいる。行政から案を出してプッシュしていただきたい。災害時の要援護については、自治会の加入者については対応できるが、そうでないところは民生委員が、ということだが、防災地域にあるアパートの人はほとんど加入していない。
- 部会長 : 農村部では、長年の蓄積もあると思うが、地域の交流が日常的に盛んなのであろう。
- 委員 : 世帯数 15 軒ほどが 1 つの班になっている。班の中は濃厚なつながりがあるが、区全体でのつながりとなると難しい。
- 会長 : ②「新しい公共」の担い手づくりに生涯教育を位置づける、というのが事務局案だが、生涯学習の充実から担い手をつくっていくための連携方法を考えてほしい。神戸市では、高齢者大学の卒業生から「単に 6 ヶ月間教わって終わりでは良いのか」という声が出て、NPO やその前段階の活動につながっている、という話が出ていた。卒業後のフォローについて、大きな NPO の中に所属するとか、各期の卒業者・グループが NPO を作り 1 つの活動団体ができていくようにするなど、連携について検討してもらいたい。
- 部会長 : 男女共同参画でも推進員の話が出た。市民参画の生涯学習を受講し、修了された方には推進員のようなものを考えられるのかもしれない。自治意識や市民参画の人材育成からすると、「リカレント」という表現は、意味としては戻って勉強する、ということだから、この表現でない方が良いかもしれない。
- 委員 : 教わるだけ、イベントするだけ、に終わらずに、自然と集まってくる仕組みづくりが重要。たとえば、市役所には寄るきっかけがない。生涯学習の中に花づくりなどの講座を開講して、市役所周辺の花壇に花を植えるなどして、環境やきっかけを作るのも大切ではないか。
- 部会長 : 前回の全体会同様、意見記入用紙が配られている。気づいたことがあれば事務局にお寄せいただきたい。本日いただいたご意見をしっかりとめて事務局で内容を精査し、新しい形でご提案させていただく。
- 事務局 : 今後 2 回の部会がある。こういった議論をさらに精査しながら、より良くしたい。2 回目の部会は 6 月 1 日 (木) 14 時から、今日と同じ場所で行う。
- 部会長 : お忙しい中ではあるが、よろしく願い申し上げます。本日は貴重なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。

以上

※発言者を示す「委員」には、代理出席者を含む。